５武中第９７２号
５武高第１３２５号
令和６年３月２９日

令和５年度 東京都立武蔵高等学校及び同附属中学校 学校経営報告

東京都立武蔵高等学校長
東京都立武蔵高等学校附属中学校長
南　和男

１　今年度の取組と自己評価

（１）教育活動の目標と方策

①　学習指導関係

ア　体系的かつ効果的な学習指導については、「中高一貫シラバス」に基づく年間授業計画を策定し、週ごとの指導計画に具体化して各教科・科目の授業を展開した。

今後は、教養教育の推進と難関大学進学に対応できる学力の向上を目指し、中高一貫教育のより一層の充実を図っていく。

イ　授業時数の確保については、学年差はあるものの、高校では１単位につき年間約39時間、中学校では年間合計約1,100時間の授業を実施した。今後とも、授業内容を一層充実させるとともに、予習・復習の徹底など、生徒の授業への取組の充実を図っていく。

ウ　授業内容の充実については、教科主任会を中心に「学力向上推進プラン」に基づき指導内容・方法を改善するとともに、思考・判断を表現する力の育成を図り、生徒の授業満足度の肯定的回答は、中学生が91.4％で高校生が86.8％であった。

今後は、定期考査や実力テストの分析等を踏まえて、学習状況をきめ細かく検証し、生徒の学力に応じた授業を行っていく。

エ　「学習ポートフォリオ」については、各教科で実施し、個々の学習事項の習熟度に応じた学習課題を提示して補充指導や発展指導を行うなど、きめ細かな学習指導に活用した。

オ　補講等の実施については、高校３年生の夏期講座は、42講座で延べ1,604人が参加した。また、高校１・２年生に対しては夏期講習、冬期講習を実施した。

また、高校１年生の「スプリングセミナー」、高校１・２年生の「共通テスト同日模試」及び高校３年生の「共通テストマラソン」は、病欠等を除き希望者全員が参加し、高校２年生の「ウィンターセミナー」は、難関大志望者39人が参加した。今後は、それぞれの取組の内容について、一層の充実を図っていく。

カ　入学者選抜においては、中学校の適性検査問題を適切に作成し、応募から発表までを適正に実施して、適性の高い生徒を入学させることができた。今後とも、生徒の適性や学力をみることのできる問題を作成していく。

②　進路指導関係

ア　キャリア教育の推進については、「キャリア教育全体計画」に基づき、中学校においては、各学年の「総合的な学習の時間」等において年間約20時間のキャリアの時間を実施した。また、高校においては、第２学年で年間約39時間の「キャリアデザイン」を実施した。また、キャリア教育の核となる活動として、中学校では、１年生でのサマーキャンプ、社会人講話、２年生での「結い」体験学習及び職場体験、３年生でのキャンパス訪問(大学訪問)を実施することができた。また、高校では、スプリングセミナー（１年生）、ウィンターセミナー（２年生）、共通テストマラソン（３年生）及び高校１・２年生での大学教授による志望分野別の模擬講義は実施することができた。

次年度も引き続き「キャリア教育全体計画」に基づき、一層の改善・充実を図る。

イ　生徒が自己の進路目標を早期に確立してその実現に取り組めるよう、「進路用ポートフォリオ」を活用するなどして、中学校１年生から高校３年生までの全学年で、生徒と教員の二者面談や保護者を加えた三者面談を実施した。

次年度も引き続き、高校段階での科目選択や志望大学選定等に面談記録を活用していく。

ウ　進路情報の提供については、各学年におけるキャリア教育に加え、高校３年生の志望校検討会の結果を踏まえた個別面談を実施し、進学実績向上の成果を上げた。

高校１・２年は年間５回の模試分析会を行い、学年会と教科会を中心に進路情報の提供と活用を進めている。

③　生活指導関係

ア　規範意識及び主体的・積極的な学習態度を確立については、中高ともに朝と放課後の学活及びＳＨＲを実施して、時間厳守や清掃活動等の基本的生活習慣の指導を徹底するとともに、各教科・科目において授業規律の一層の徹底を図った。また引き続き挨拶の励行を推進し、中高とも一層の改善が図られた。

イ　道徳心と道徳実践力を育成については、中高の道徳教育全体計画に基づき、全教育活動を通した心の教育に取り組んだ。例年実施している、道徳実践力を生かす社会貢献活動として、中高の生徒会が主催し、コンタクトレンズの空ケースの回収を行い、ＳＤＧｓと結び付けるとともに、書き損じはがきや切手の回収を行い、国際協力団体に寄付する活動を行った。また、中学校においては、道徳の授業の成果を生かし、道徳授業地区公開講座を実施した。

ウ　交通ルール、情報モラル及び薬物乱用防止等の指導の徹底については、セーフティ教室やＨＲ・学活等での指導のほか、長期休業前に配布する文書を基に指導を行い、とくに自転車のヘルメット着用については動画も活用して徹底を図った。

エ　生徒の委員会活動については、担当の教員や担任が適時適切に生徒への指導・助言を行い、計画性や協調性、実行力等の育成を図った。学校行事については、音楽祭・文化祭・体育祭の三大行事をはじめ、すべての行事について予定通り実施することができた。

オ　部活動については、顧問の指導の下、中高合同部活の中学生への指導も含め、各部活動において生徒が主体的かつ安全の最優先を重視した活動となった。さらには学習と部活動の両立を確立するため、活動時間の厳守、メリハリのある活動計画の立案及び休養日の適切な設定を定着させることができた。今後については、とくに中学校における地域クラブ移行への対応が課題である。

④　保健、美化指導関係

ア　生徒の健康・安全管理のため年間計画に基づき、新型コロナウィルス感染症の５類移行後も引き続き予防対策に取り組んだ。

避難訓練については、教室での講話等全校訓練４回のほか、中学生は災害時の帰宅ルートの確認や、緊急時に集団下校をする際のグループ分け及び顔合わせ、防災講話等を実施した。

イ　教育相談関係については、生徒対象の保健講話及び講演会を実施したほか、スクールカウンセラーと担任教員、教科担当教員等による特別支援教育委員会を年６回実施するとともに、都及び区市等の関係機関と連携して相談・指導に当たった。

ウ　中高合同の「美化デー」を年間11回実施するなどして校舎内外の環境美化とゴミの減量・資源化等の徹底に努めた。

⑤　学校経営・組織体制関係

ア　31回実施した企画調整会議を中心に全教職員の情報共有及び経営参画を進めた。

イ　すべての校務分掌が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年間総括を実施した。成果のさらなる充実と課題の改善への取り組みを実行すると

ともに、ライフワークバランスの一層の推進が課題である。

ウ　施設・設備については、体育館棟の改修や校舎内外の危険個所の修繕等を行い、教育環境の整備・向上を図った。

エ　文書発行や電話・窓口対応等は、個人情報に留意して適切に実施した。

（２）重点目標と方策

①　キャリア教育については、前述のとおり進路指導関係の各行事や学級担任による個別面談等を体系的に実施し、進路目標の決定率は中学校３年生 120 名全員、高校２年生 107 名でほぼ全員であった。

②　学力向上については、前述の学習指導関係の各行事や学習用ポートフォリオの活用等によって、生徒が高い学力と豊かな教養を身に付け、第一志望の進路目標を達成できるよう取り組んだ。中学３年生では、指標とした「学力推移調査」の３教科の偏差値は 66.7（昨年度 65.1）、偏差値 70 以上は 27 名（昨年度 25 名）となった。高校では、大学共通テスト受験率は約 100%、うち 5-7(8)型の受験率は約 76%（目標 70%）であり、生徒数 103 名（昨年度 187 名）の中で、国公立大学及び難関私立大学（早稲田、慶応、上智及び私大医学部）への現役合格者数は 120 名（昨年度 201 名）であった。内訳は、国公立大学 42 名（昨年度 74 名）及び難関私立大学 78 名（昨年度 127 名）であった。なお、東京大学、京都大学、一橋大学、東京工業大学及び国公立大学医学部（防衛医科大学校含む）の現役合格者数は 21 名（昨年度 30 名）であった。

③　「地球学」及び「社会貢献」「キャリアデザイン」については、高校１年生の「地球学個人課題研究」で論文の提出と研究発表会を１２月１４日・２月２２日に行い、学年代表１５名（うち３名が英語による発表）による代表者発表会を３月７日に実施した。

奉仕体験活動については、近隣中学校等において学習活動の補助を行う等の活動を行った。

④　英語教育推進校として、４技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導を実施するとともに、理数教育研究校として中学３年生では、中学科学コンテスト東京大会に６チーム出場し、そのうち１チームは６位となり銅賞を獲得した。また日本学生科学賞東京都大会では、優秀賞（２名）、奨励賞（３名）、努力賞（３名）であった。高校生では、第３５回アジア太平洋数学オリンピックで金賞、第６４回国際数学オリンピックで金メダルを獲得し、文部科学大臣表彰を受けた（１名）のをはじめ、科学の甲子園東京大会第４位、日本生物学オリンピック 2023 本選銀賞（１名）、日本情報オリンピック本選出場（１名）、化学グランプリ 2023 で化学グランプリ支部長賞（１名）など成果を上げた。

⑤　広報活動の充実については、学校見学会・説明会等を中学校で１６回実施した。特に学校見学会では中学校 1 年生による適性検査問題解説を昨年に続き実施するとともに、学校説明会では新たに中高生の生徒による学校の説明を新たに導入し、好評を得た。

校外の説明会・講演会・相談回答については、都立の合同説明会と塾主催の説明会に参加し、それ以外に個別に塾を訪問する形を取った。また、ホームページの改善・充実と更新に努め、アクセス数は約 106 万回(昨年度 79 万回)であった。入学者選抜の応募倍率は、中学校 2.6 倍であった。

⑥　教職員の資質・能力の向上については、授業力向上のほか、情報セキュリティ等の課題に対応した研修及び保有個人情報の点検・確認を計 6 回実施するなど、服務事故防止の取り組みに重点を置いた。